

産業経済学科

人材養成および教育研究上の目的

産業経済学科は、学際的実学教育により、現実社会における問題の発見と原因究明を行い、その解決策を立案し実行できるスペシャリストを育成することを教育理念とする。この理念に基づき、経済学とその関連諸学の学習を通して論理的思考力と実証的分析力を高め、さらにフィールドスタディによって地域社会や企業経営に対する洞察力を養い、実践的な問題解決力を有する人材を養成することを目的とする。

三つのポリシー

❖ アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

産業経済学科は、経済・産業・社会について、自ら問題の本質を発見し、その問題を解決するための論理的かつ実行可能なプロセスを構築できるプロフェッショナルの育成を教育理念とします。このような理念に合わせ、社会一般や個別産業・企業の諸問題に強い関心を持ち、既成の概念にとらわれない独創的な発想を好む個性豊かな学生を幅広く入学させます。そのため、一般入試や推薦入試などの様々な入試形態を活用し、基礎学力を有し、産業社会の現状や歴史的変化に大きな関心を持つ学生を選抜します。

❖ カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

カリキュラムは全学的に実施する共通科目、教職科目のほかに、産業経済学科では基礎専門教育科目、専門教育科目を学生に提供します。学生は経済学入門、産業経済入門、ミクロ経済学、マクロ経済学が中心となる基礎専門教育科目を必修科目として履修し、自らゼミやコースを選ぶことによって学習していきたい専門を選びます。産業経済学科は企業研究が中心となる企画戦略コースと産業都市研究が中心となる社会システム分析コースの2コースで構成されます。各コースには学生の問題解決能力を涵養させるための体系的な専門科目群が設置されていて、産業社会の諸問題の本質を発見し、その解決方法を考案するロジックを学びます。

❖ ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

産業経済学科は、総合教育科目・外国語科目・保健体育科目・単位互換科目からなる共通教育科目から32単位以上、学科の専門教育科目から66単位以上、また共通教育科目・専門教育科目・関連教育科目からなる自由履修科目から30単位以上の計128単位以上の履修を卒業要件とします。産業経済学科は専門性の高い学科教育を行うため、その高い専門性から由来しうるカリキュラムの硬直性を防ぐため、自由履修科目から30単位





以上の履修を認めています。基礎専門教育から 18 単位、選択したコースから 20 単位以上のコース別専門科目の履修が卒業要件となります。卒業研究・論文は必修ではないが、学生の卒業論文作成を奨励しています。

卒業時には経済学に関する基本知識はもちろん、コンピュータを使ったデータ解析能力、企業経営に必要な基礎的経営戦略理論を身につけていることが卒業生に要求されます。

